

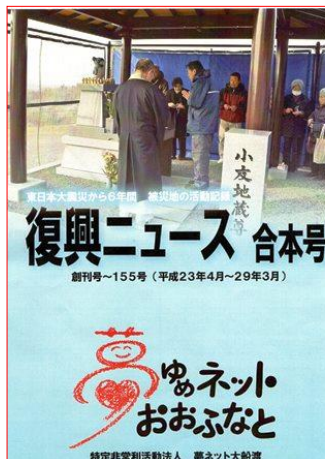
(毎月1日発行、創刊号平成23年4月11日)



復興ニュース

155号
2017年
3月1日

紙による復興ニュース発行 最終号



震災翌月4月11日付から発行しました「復興ニュース」は今月で155号となりました。6年間に渡って発行出来たのも、多くの皆様のご支援のお陰であり心からお礼を申し上げます。

誠に勝手ながら今月号をもちまして紙による復興ニュース発行は終わりにし、4月以降はネットへアップするインターネット発信（随時発行）といたします。

避難所から仮設住宅と被災者にはネットを利用しない方も多くいらしゃいますので、紙で発行して参りましたが、取材から印刷する経費や配布するスタッフの関係もあっての変更ですのでご了承願います。

この6年間仮設住宅等で配布ボランティアを引き受けて下さいました皆さんに心からお礼を申し上げます。さらに助成金やご寄付して

頂きました多くの皆様に心からお礼を申し上げます。

◆ 復興ニュース 155号までの歩み

★創刊号発行当時（平成23年4月）

陸前高田市のボランティアセンターからの要請により、米崎小学校の机や棚などの運搬、全国から寄せられた支援物資の運び入れなど。また、神奈川県ボランティアセンターの皆さんと瓦礫の中から写真等を探し出しが最初の記事でした。避難所の炊き出しは広田町慈恩寺が初めて箸を忘れたことなど、活動も復興ニュース発行も手探り状態でした。

★愛知ネットのボランティア山口奈美さん

手探りの発行へ専任の担当者が生まれました。山口さんは17号（5月17日）～40号（8月31日）までの3ヵ月半の期間にA4判1ページからA4の4ページへ、内容も市民活動団体へのお知らせから、被災地の色々のイベントなどの情報を加えて編集し、仮設住宅や公共施設・ショッピングセンターへも配布するようになり、現在の復興ニュースの基礎を作りました。

この間の印刷機は住田町役場でお世話になりました。故障の際はパチンコ店の印刷機をお借りしたことも思い出されます。

★復興応援隊の河野由佳さん

88号（平成25年4月）～147号（28年7月）までの3年3ヵ月間、気仙を飛び回り各方面からの取材を行って頂きました。今でも河野さん元気でしょうかと聞かれることもあります。印刷所も東海新報社、リアスアドセンター、岩手開発産業にお世話になりました。

★助成金や寄付金

助成金は日本NPOセンター、中央共同募金会、岩手県福祉基金、東北労働金庫、公益財団公益法人協会等から受けました。また、ご寄付は美山まちづくりNPO、MS&ADゆにぞんスマイルクラブ、元気人間製造研究所、酒田砂丘株等からの寄付金を復興ニュース発行資金として使わせて頂きました。心からお礼を申し上げます。

◆ 復興ニュース合本号 3月に発行 736ページの大冊

被災後6年間に亘り発行して参りました復興ニュースを一冊の本として発行することにしました。あの未曾有の大震災にどう対処すべきか全く分からない時期に、県内外の支援団体に勇気づけられ今日まで歩いて参りました。その記録が「復興ニュース」であったと思います。小さな地域の復興記録しかもその一部の記録ですが、被災後の活動記録として参考になるものと思っています。

復興ニュース合本号をご希望の方は夢ネット大船渡へご連絡ください。

「幼い命を守る防災月間」

～ NPO 法人こそだてシップが開催 ～

大船渡市には他所の市町村からの転入者が多い。また、震災後にお母さんになった方もあり、子育て中のお母さんが非常時に何を持ち出したらよいのか、避難場所は等々。

2月13日から28日まで「幼い命を守る防災月間」として、同法人が運営するサンリア2F「すくすくルーム」で幼児の親向けの啓発活動が行われました。

※写真は防災マップを前に説明する伊藤怜子理事長
配布しているパンフ「乳幼児の地震防災グッズ」によれば、女性が一人で運べる重さは10kgが目安、自分と子どもの身の安全を最優先に、荷物は出来るだけ小さくまとめましょう。そして必須アイテムとして懐中電灯、ラジオ、乾電池、食料、飲料水、ウエットティッシュ、おしりふき、おむつ、ミルク、ビニール袋、ホイッスル、万能ナイフ、携帯電話と充電器、おもちゃや絵本など。

すくすくルームには、防災紙芝居や防災グッズの展示、さらに東日本大震災体験を伝える話し合い。また、非常時に何方か声をかけられる人をひとり見つけておいてくださいなど、非常時に日常から心がけておきたい幼い命を守る方途について多方面から啓蒙していました。

すくすくルームの利用時間は、午前10時から午後4時まで（水曜日定休日）です。



「おらほアート展 in 陸前高田」見に来て下さい！



昨年12月に神戸市で開催された「おかんアートとハンドクラフト展」に参加された陸前高田のお母さんたちの作品は、神戸の皆さんに大好評。ぜひ交流を深めたいとの声があったことから、今回の企画となりました。

会場では有志によるワークショップも開き、新たなコミュニティづくりの応援や、神戸からおかんアーティストたちを招聘し、手芸品を作っている方々との交流も行いながら、地域を越えた元気の相乗効果を目指し開催しますので、多くの皆様のご来場をお待ちしています。

- ★ 開催日 平成29年3月25日(10:00～16:00)～3月26日(10:00～15:00)
 - ★ 開催場所 陸前高田市コミュニティホール(エントランスホール・和室)
 - ★ 主催者 Home of Wisdom ・ 陸前高田市復興支援連絡会
- ※ 3月24日に会場で飾り付け、26日の終了後作品回収の予定です

高田町 セタ写真展 3月12日まで

昨年開催しました「動くセタ写真コンテスト」が行われております。写真は松原・川原・中央・長砂・大町・和野・荒町・駅前・森前・鳴石・大石の各組の写真が展示してあります。投票はすでに終了しましたが、展示は3月12日(日)まで、陸前高田市コミュニティホールで行っています。ぜひご覧ください。

主催：高田地区コミュニティ推進協議会



寒緋(かんひ)桜 三鉄盛駅に届く

～ 沖縄の仲間勝弘さんから ～

さわやか福祉財団の一員として何度も大船渡へお出で頂きました沖縄県の仲間勝弘さんから、今年も満開に咲いています桜の枝が2月14日三鉄盛駅へ送られてきました。

今年の桜前線予想もまだ岩手県では未定の時期ですが、ぜひ桜を見て元気を出して欲しいとの願いで贈って頂きました。

手芸用品が贈られる

手芸講習で利用 ありがとうございます

2月14日夢ネット大船渡へ荷物3個口(手芸布等)が送られて来ました。送付主はこれまで何度も送ってくれました東京の方です。

布地や毛糸など沢山入っておりました。現在実施しています陸前高田市・住田町・大船渡市の仮設住宅や災害公営住宅の手芸講習の際に使わせていただきます。

夢ネット大船渡は、震災直後ネットで要望したこともあり、全国の方々から大変な量の手芸用品が贈られて来ました。贈られた布や毛糸を要望者へお渡ししたのが縁で、平成24年2月には大船渡市と陸前高田市での手芸作品展示会開催。同年4月から仮設住宅での手芸講習、内職希望者による「こしゃる三陸」の立ち上げと販売等々を行って参りました。

震災から6年も経過し販売支援は止めましたが手芸講習は続けております。



被災地になりわいを！

いわて復興応援隊 佐藤秀則



私は、東日本大震災後、岩手県が被災地の復興支援を目的に組織した「いわて復興応援隊」の隊員として「なりわいの再生」「起業・創業」のサポートを目的に平成25年4月から大船渡を中心に起業相談会や起業セミナーを開催するなど気仙地域で活動してきました。

早いものでもう4年が過ぎ、今思うと長いようで、あっという間だったとも感じています。

大船渡市はもちろん、岩手県、宮城県、福島県の沿岸地域は、あの津波で壊滅的な被害を受け、震災から6年が過ぎようとしている今もなお、その傷跡は、大きく残ったままです。それでも被災地の皆さんは、懸命に復興へと進んでいます。

私にとって第二の故郷でもあるここ大船渡。小学校時代をここで過ごし、卒業したあの小学校の校舎が津波に飲まれるなんて想像すらできませんでした。

その思い出深い地で何かできることはないかと復興応援隊に志願し、この地で懸命に立ち上がろうとする方々のお手伝いをさせていただきました。

NPO法人夢ネット大船渡に席を置かせていただき、大船渡市役所起業支援室とも連携し、地元で起業する方々に寄り添ってきました。

市役所主催で開催した起業相談会では、定例相談会を始めた平成25年11月から今までで延べ150人もの方々の相談を受け付けました。

定例の相談会以外で受け付けた個別相談を含めるとその件数は4年間で延べ800回以上にもなり、それだけ被災地の皆さんが、必死だったことが伺えます。

私が対応した相談がどれだけ相談に来られた方々のお役に立てたのかは疑問ですが、まったくのゼロから始まり、なりわいの形が出来上がっていくのを目にすることで私自身の励みにもなりました。

震災直後は、それこそ何もない状況でありながら、それでも「何がなんでも仕事を創るんだ！」という被災地のみなさんの想いを強く感じ、私自身励まされました。

間もなく、いわて復興応援隊としての役目を終えますが、これからも何らかの形で被災地のみなさんに寄り添えればと思っています。写真【起業・創業補助金活用セミナー】風景

三鉄盛馬車運営

夢ネット大船渡 29年3月末で終了

平成23年10月より岩手県から委託を受け運営して参りました三陸鉄道盛駅は、諸般の事情から平成29年3月31日をもって運営から手を引くことに致しました。

長い間温かいご支援を頂き心から感謝申し上げます。夢ネット大船渡は震災前同様に引き続き三鉄を支援いたします。今後とも三鉄への温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

地域の生きがいに 住田町でマジックを披露 AMC大船渡



★デイサービスセンターとだて（2月8日）

★下有住あたごお茶っこ会（2月16日）

アマチュア・マジシャンズ・クラブ大船渡（略称：AMC大船渡）は、上記日程にて両施設でマジックを披露し、喜んで頂きました。※写真は「お茶会」の様子です。

あたごお茶っこの会では、マジック披露終了後お茶っこに呼ばれ、おにぎり・汁物・がんづき・羊羹（すべて手作り）をご馳走になりました。その席には社協から職員が来て、新年度からは「カフェなるせ」として毎週開催する。

また、盛岡への管外研修旅行や「手づくり結婚式」を昔風で行うなど楽しいことが話題となりました。

2月のマジック研修会 AMC大船渡

いきいき岩手支援財団（ご近所支え合い）の助成を受けて今年度で2年目となりました。花巻からの講師を迎えての研修会は12月で終了し、今月は会員相互に教え合う研修会でした。

2月17日午後、大船渡地区公民館でお互い指導者となり、ロープ・新聞紙・花・ハンカチなどなど教え合いました。今後のマジック披露の為に熱心に勉強していました。



三鉄盛駅からのご案内 申込先 TEL 0192-47-3542

- ◆ 三鉄盛駅ホワイトデー 3月14日（火） 当たりくじ付き
乗車券・商品など購入者の先着50名様へ お菓子をプレゼントします
- ◆ あでやか切り絵講習会 3月18日（土）13:30~15:30
場所：三鉄盛駅ふれあい待合室、参加費500円（教材代） 定員5名
花絵台紙の裏側から裏側へチラシなどを切り貼りして、素敵な切り絵の出来上がりです
- ◆ 三鉄駅弁列車 3月19日（日）三鉄盛駅へ11時00分集合 《申し込み必要》
盛駅発 11:25~釜石駅折り返し~盛駅着 13:40 定員48名 最少催行20名
参加費2,500円（駅弁・乗車料代）、申込み3月13日（最終締切3月16日）
- ◆ 「記念缶バッジ作り体験」 3月20日（月・祝） 10:00~16:00
場所：三鉄盛駅 参加費 1個200円（缶バッジ代） お申込み不要
★ 画像・写真・絵柄など缶バッジに写すものを持参ください
あなただけのオリジナル缶バッジを作りませんか
- ◆ 三鉄駅からウォーク 《申し込み必要》 恋し浜駅から甫嶺駅まで 約4km
3月25日（土）8:30 三鉄盛駅に集合 盛駅発9:13⇒恋し浜駅9:32
ウォーク出発9:50 ⇒ 春の息吹 鬼沢漁港 ⇒ 甫嶺駅着 11:10
甫嶺駅発 11:27 ⇒ 盛駅着 11:50 引き続きカメラアホールで完歩昼食表彰式
参加費 550円+昼食完歩表彰式 450円（昼食代）=1,000円
昼食表彰式に参加しない方は参加費 550円です。×切3月22日
- ◆ 無料法律相談 《申し込み必要》 お気軽にご相談下さい どんな相談で承ります
東京の認定NPO法人ヒューマンライツ・ナウから弁護士が来ます
3月26日（日）10:00~13:20 一人40分間 弁護士2名参ります
秘密を守れる部屋で対応しています

~ご意見、ご感想をお寄せください~

あて先：NPO法人夢ネット大船渡

*〒022-0003

大船渡市盛町字内の目14-15

*TEL/fax 0192-47-3271

*メール npoyumenet@bz01.plala.or.jp

この復興ニュース発行には
岩手県福祉基金からの助成と
元気人間製造研究所（大阪府堺市）
酒田砂丘開発 株式会社（山形県）
のご寄付を受けています。